

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鷺園		
事業所名	グループホーム津山 南館		
所在地	岡山県津山市小田中138-1		
自己評価作成日	平成21年10月2日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390300048&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市南方町2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成21年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南向きで明るく広いホールにゆったりと過ごしていただいています。台所からホール全体が見渡せ、見守ることができます。毎日のレクリエーション、リハビリ体操は、ほとんどの利用者が参加され、一緒に楽しく行なっています。なかでもカラオケは懐かしい曲に合わせ、自然と口ずさまれています。季節にあった行事と、食事を取り入れ、家庭的な雰囲気一人でひとりが安全で安心して過ごせる居心地の良い場所の提供と、おぼつかないところが増えても笑顔がでる暮らしができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

95歳になる男性が夜になると不穏になり「家に帰りたい」等大声を出すのが、家族は何かあったらいつでも言ってくれたいと言ってくれるので、息子さんに連絡するとすぐ駆けつけてくれる。息子さんの姿を見ると大変喜ばれ、抱き合って喜び本人も落ち着く。他の家族も同じような事を言われて、家に帰りたいと言えば家に連れて帰ってくれるそうだ。ホームに居ても家族が自分たちの絆をしっかりと受け止めてくれる人が多く、いつでも家族と本人、そしてホームとが太いパイプで結ばれている。多くの家族は家に居た時は寝てばかりでぼうとしていたが、ホームに入って元気で表情も豊かになったと喜んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と一緒に作った理念に基づいたサービスを職員全員で共有し、実践に努力しケアに生かしている	理念は皆の目に付き易い場所に掲示し、日々意識しながら支援している。「家庭的な雰囲気の中で和を大切にしたいケアをしたい」との職員の声も聞いた。理念を共有し実践しようとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃のあいさつを大切に、行事と一緒にさせていただいたり、運営会議に出席していただいたりしています	裏の畑の人に野菜を貰ったり、挨拶など日常的な付き合い以外に、敬老会等ホームの行事に誘ったり、とんど焼きを一緒にしたり、地域のお涼み会等行事にも参加する等交流を深めようとしている。	利用者の重度化のため、日常的な散歩等外出が困難になってきた。ならば地域の人に来てもらえるように、自治会の回覧でホームの行事を紹介する等呼び込む働きかけを工夫しよう。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する情報を発信するよう検討しています		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回初めてで、評価については運営会議で報告いたしました	運営推進会議で出た意見に沿って、分かりやすいよう道路入り口にホームの看板を設置したり、じゃり道で水たまりができていたホーム周辺を安全のためコンクリート舗装にして溝を造る等改善した。	定期的に会議を開催しているが、出席者や内容がパターン化している感がある。ホームの行事と会議と一緒に実施して参加してもらったり、新しいメンバーを募ってみてはどうか。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修会には必ず出席し、運営会議では出来るだけ出席していただいたりしています。日頃の業務での質問等を電話で対応していただいています	何かあればその都度市町村に相談し、市の研修会には必ず参加して、協力しながらより良いサービスに努めている。運営推進会議に市町村担当者が出席しているので、ホームの実情も分かっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で話し合っている。現状身体拘束の必要性はなかったが、最近入所した方が徘徊あり、不安、困惑を取り除くよう優しい声掛けをし、コミュニケーションを図っている。	玄関施錠せず、医師と連携して過剰にならない様慎重に抗精神剤等服薬に配慮する等職員は一丸となって、見守りと利用者との信頼関係構築により、身体拘束をしないケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃、家族と話す中で該当利用者はおられず。職員は概要は理解できているが、今後研修も含め、体制を整えていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を説明、理解と納得を得ている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、面会時又は電話連絡時、運営会議の場で意見要望を尋ね、ミーティングにて話し合い、反映させている	毎月家族に便りを送付し情報を伝え、面会時や必要に応じて電話でも話し合い、家族の要望により、浴室シャワー前に暖房機を設置するなど意見の反映もできている。運営推進会議に家族参加もある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、スタッフ会議に於いて、意見、提案を聞き、話し合いの上反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員ミーティングで話し合い、その意見や提案を皆で相談している。職員達は活発に発言し、管理者は皆が助けてくれると、それを歓迎して個性を引き出し協働できている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の会議にて、各事業所の状況を把握し、又 随時の報・連・相にて対応されています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修参加と、施設内研修により各自の向上心と、資質の向上に努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市やグループホーム協会の研修に参加し、交流すると共に資質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、又 入所前にご本人に施設見学していただき安心して入所していただけるよう配慮しています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくことが御本人、家族にとって良いかをご家族とゆっくり話をしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって一番良いと思われる方法を共に考え、情報提供しながら進めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を聞いたり、目線を合わせ会話し、自己選択して答えてもらえるよう工夫や声掛けに配慮している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告をこまめに行うことで、ご家族にも状況把握していただき、又行事など一緒に過ごす機会を作るなど、よきパイプ役になれるよう努めています		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と家族の意向に添うよう支援しています。ご家族がいつもの散髪屋に連れて行ってくださったりしています	家族が馴染みの散髪屋に連れて行ったり、友人が訪問してくれる人もいます。ホーム裏の神社の氏子だった人は、散歩の時に寄贈者の自分の名前を見て喜んでいる。できる範囲での支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションの中で仲間意識を高める声掛けをし、一緒にいて笑顔が出る関係が築けるように挨拶、会話がもてるよう工夫をしています。いつも一緒に座っていて安心な様子です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族の気持ちを考え自宅を訪問したり、他施設に入所された方は、移動時に生活状況、情報提供しました。時々立ち寄るようにしています		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定出来にくい利用者の方にも、自己選択して答えてもらえるよう工夫や声掛けに配慮している	皆がリビングで集う中、「寝とる方がええ」とマイペースの人もいた。職員はタイミングを見て声かけしながらも強要はせず、その人の気持ちに添った支援を行い、無理のない対応が出来ていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、ご家族の面会時に話の中で聞いた内容を職員全員で共有しケアに生かしています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないことをアセスメントしミーティングやカンファレンスで話し合い職員全員で共有し一人ひとりの自立支援に努めています		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向に添うよう思い、要望等を聞き、スタッフ会議にてモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成しています	本人・家族からよく話を聞き、全職員で情報を共有し、相談しながらプランを作成して検証している。介護福祉士資格保持者の職員が多く、各自が意見を持ち、ケアに対する認識も高い。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についてはわかりやすいよう記述し、バイタル、食事量、レク参加状況、入浴等は ×と数値記入し、介護計画や日々のケアに生かしています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、希望、要望に対応し出来る限りの支援に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れたり、外出した際、地域にある公園など活用させていただいています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診に来られ、診ていただけるので本人、家族とも安心しておられます	通院は原則として家族に依頼しているが、月2回往診に来て何かあれば対応してもらえるホームの協力医院が、殆どの利用者の主治医なので、互いに情報交換して相談し、よく連携できている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師来所し、個々の健康管理、相談、指示を仰ぎ、維持に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況を看護添書にて情報提供し、連携をとっている。入院中の様子を聞いたり、お見舞い時に様子を聞くようにしています。退院時も状況把握に努めています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時に家族の意向を聞き、入所後は必要に応じ確認し、本人が一番安心、安全で穏やかに過ごせる所を相談し、支援しています	重度化し医療行為が必要になった時は、ホームは対応できない旨を契約時に説明し、了解を得ているが、ホームは本人・家族の希望を尊重し、ケースバイケースで出来る限り支援したいと考えている。同一母体法人内でのサポート体制もホームの強味になっている	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを元にスタッフ会議で対応検討をしたり、研修参加している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実地している。地域に万が一の時の協力についての話し合いもしています	災害時の連絡網やマニュアルも作成し、利用者も参加して昼と夜を想定した避難訓練も実施した。運営推進会議での意見で、具体的な対処を消防署に確認し、近隣住民に災害時の協力依頼も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合った対応をし、プライバシーの尊重に努めている	「春はあけぼの。はい、では冬は何？」職員を問い詰め、元教師だった利用者はその人らしさを発揮する。「どうしましょうか？」の言葉かけもたびたび聞いた。利用者一人ひとりを尊重できていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、返事がもらえる声掛けし、又、表情を読み取るように努めています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムを崩さないように、又、一人ひとりの状態により希望を聞きながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、季候に合った衣類を選択していただき、着用していただいています。身だしなみ、おしゃれについての声掛け、誉め言葉を添えています		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食べ物をその時々に合わせて提供し、一人ひとりの食べやすい状態を配慮しています。準備、片付けは利用者の状態により出来ていません	その人に合わせて補助スプーンを使用したり、小さめに切ったりトロミをつける等食べ易い工夫をして、できる所まで自分で食べ、足りない部分のみ介助していた。美味しい食事に満足し全員完食だった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、体重の増減を考慮し、一人ひとりにあった食事量、堅さ、大きさを配慮している。水分は楽しく摂れるようお茶の時間は種類を変え提供しています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアが習慣になっています。ご自分でされた後、不十分な方は仕上げを介助します		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあった声掛け、誘導、自立支援を行い、後始末、排尿、排便状態を把握し、記録し、トイレでの排泄に努めています	排泄チェック表で各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさり気なくトイレ誘導し、トイレでの排泄を大切にしたい支援に取り組んでいた。ホームに来て失禁やトイレ拒否が改善した人もいます。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と、繊維質の多い食物の提供に努め、排尿排便チェック表記入し、排便コントロールを行っています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後であり、体調と希望を聞き、対応しています	体調さえ良ければ、本人の希望を聞きながら、全員に毎日入浴支援を行っている。重度化が進行する中での入浴介助は大変だと思いがホームは良く頑張っている。暖房機を設置する等の配慮もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、希望に沿って休んでいただいています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、管理している。処方内容を薬品カードで確認し、服薬忘れの無いよう習慣化出来ています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしています		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全体行事で外出、外食しています。行事等の企画の中でゆかりの地を訪ねたりしています。身体的状況と、人員状況から日常的な外出はしにくいですが、本人の希望があれば家族と相談し、その都度決めています	利用者の重度化のため、人員状況から気軽な日常的な外出は困難なので、花見や紅葉狩り等季節の行楽や外食・ドライブ等を行事として企画し、準備を整え、出来る限り戸外に出ようと努めている。	重度化のため外出が難しくなっているが、全員でなく個別支援で畑や花壇、時には窓際で日向ぼっこ等無理なく出来る範囲で、家族にも協力してもらいつつ工夫してみよう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の身体的状況により、日常的な外出、金銭管理は行える状態ではないです		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの状態と、家族の事情に配慮し支援しています		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングには食卓の区画とテレビを囲むソファの区画があり、利用者同士が落ち着いて過ごしておられる。壁の飾りや花を飾ることで季節感を出しています。	樹の温かみ溢れる造りで、日当たりの良い吐き出しの窓からは季節の風を感じ、全体に明るく開放的な雰囲気が漂う。食卓以外に、テレビ前にはぐるりとソファのスペースがあり、居場所も多い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、ホールのソファはほぼ座る場所が決まっており、利用者同士のなじみの関係もあり、落ち着いて過ごされています		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド。布団以外の家具や道具は家族と利用者が持ち込んで独自の居室にしています	家族からの手紙を壁に貼ったり、花や人形を飾る人、三段棚や整理ケースを持ち込む人もいて、その人らしい居室になっていた。近くの山や柿のき、桃の木等窓からの眺めも楽しく日当たりも良い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・事務所・リビングから居室やトイレが見渡せ、わかりやすく位置しています。利用者の動きは把握でき、利用者は自分の居室、トイレの場所は理解されています		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム津山 (南館)

作成日: 平成21年11月 1日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する 期間
1	2	地域の人達との交流が限定的にしか出来ていない。特に子供との交流が少ない。	近隣にある小学校や保育園などと交流を持つ。	近くにある小学校の地域交流授業に参加させてもらう。(この小学校ではチューリップの球根を近隣の高齢者施設等に配って交流を行う取り組みをしている。)	6ヶ月
2	49	建物の外には自由に出られるものの、実際には介助等がないと自由に屋外に出られないため、特定の利用者しか実施できていない。	全利用者が日常的に屋外に出ることが出来る。	天気の良い日は日向ぼっこや散歩で全員が屋外に出られる機会を設ける。	6ヶ月
3	18	生活の中に役割分担が少なく、残存能力が活かされていない。	それぞれの残存能力と、その人の体調、気持ちを考慮し、日常生活の中での役割提供をする。	女性の方には、洗濯たたみ、洗濯干し、テーブル拭き、拭き掃除、男性の方には、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶、新聞たたみ、その他出来る役割を提供する。	6ヶ月
4	18				ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。